

平成28年 産業研究所
道頓堀リバーフェスティバル海外特派員
報告書



関西学院大学 産業研究所

■道頓堀リバーフェスティバル 海外特派員派遣の概要：

2016年10月22日（土）・23日（日）、産業研究所は産経新聞との連携事業の一環として「道頓堀リバーフェスティバル」に道頓堀リバーフェスティバル海外特派員11名（経済学部6名、商学部1名、法学部1名、国際学部3名）を派遣しました。

道頓堀リバーフェスティバルは「大阪の文化・芸能、グルメ、そして日本全国の魅力を大阪ミナミから発信！！」をテーマに、文楽、落語、上方舞や和太鼓などの伝統芸能から、お笑い、グルメ、JAZZにダンス、よさこいまで大阪の魅力やエンターテインメント全てを集めた大阪最大級のフェスティバルとなっており、国内外から観光客が激増しているミナミや大阪のみならず、全国の地方文化の魅力を発信するイベントです。このイベント「道頓堀リバーフェスティバル」の海外特派員として、また、海外特派員は「道頓堀リバーフェスティバル」の運営補助として、海外留学生ボランティアスタッフの通訳補助、留学生と一緒にリバーフェスティバルの取材および発信を行いました。

なお、10月23日産経新聞朝刊（大阪府下エリア）27面に海外特派員派遣の概要について掲載されました。

■日時：2016年10月22日（土）、23日（日）10：30～18：30

■場所：道頓堀リバーフェスティバル会場

■受入先：大阪活性化事業 2016 実行委員会

（大阪市商店会総連盟、大阪観光局、（株）よしもとクリエイティブ・エージェンシー、産経新聞社）

■内容：道頓堀リバーフェスティバルにおける運営補助

- ① 海外留学生（中国3名、韓国2名、アメリカ他3名、タイ1名、インドネシア1名）スタッフのサポート、通訳補助等
- ② 日本チーム代表としての、リバーフェスティバル取材、発信（各自のSNSや事業HPへ掲載）

<ご参考：学生が投稿したSNSの記事（抜粋）>

2016年10/22～23に道頓堀リバーフェスティバルが開催された。このイベントは落語や歌舞伎、文楽など、大阪ならではの芸能を披露した他、キッズダンス、JAZZ、よさこいや、地方の物産・観光が集結したブースや、グルメの屋台などで、... さらに表示



2016年10月22.23日大阪道頓堀にて"道頓堀リバーフェスティバル"が開催された。大阪の伝統芸能、よさこい、ダンス、グルメと多岐に渡ったイベントが魅力である。5年前から大阪ミナミ活性化のために動いており、このイベントも2年目である。この祭典は沢山の協力により成り立っており、大阪のインバウンドな消費を促す大きなきっかけに繋がるだろう。また、人が集まり賑わうことによって大阪の地の価格上昇による経済発展に

■参加当初の目標（学生の報告書より）

- ・留学生が分からないことがあったらサポートをしつつ、リバーフェスティバルがどのような目的で行われているか、肌で感じ、一緒に盛り上げる。
- ・任された仕事に責任を持ってやり遂げる。また、仕事を通して、自分にどんなスキルが足りていないのか、これから何が必要なのかを発見し、今後に活かす。
- ・留学生に日本の魅力を伝えるサポートをする。
- ・外国人留学生と協力して、道頓堀リバーフェスティバルの魅力をフルに伝える。
- ・道頓堀リバーフェスティバル取材し、魅力を発信する。
- ・外国人留学生の方々との交流を通じて互いの生活、文化等の相互理解を深める。また同時に、今回のイベントに関するリアルタイムな情報を学生の立場から多くの人に発信する。
- ・できるだけ多くのところを飛び回って、写真にし、留学生の方と意見を交換する。
- ・留学生との交流を深めるとともに、様々な人と会話を交わし人脈を広げる。また話す過程で様々なことを聞き、自分の中に吸収し、学びに変える。
- ・できるだけ沢山の記事をネット上に投稿することによって、本フェスティバルの認知度を上げる

■事業の実施内容（学生の報告書より）

- ・大阪観光局ブース内での、外国人向けアンケート配布の手伝い等。
- ・フェスティバルの取材、SNSでの拡散。外国人20組へのアンケートの実施。
- ・パートナーの留学生と共に各ブースをめぐり、見た・聞いた・食べ物についてSNSに投稿。
- ・留学生と同行し、会話におけるフォローをする。
- ・SNSに道頓堀リバーフェスティバルに関する投稿を行い、情報を発信する。
- ・外国人留学生とチームを組み、共に道頓堀リバーフェスティバルの様子を記録・取材する。
- ・自ら体感したフェスティバルの様子を写真・文章と共にSNSにアップする。
- ・英語と日本語を交え意思疎通を図りながらイベントを共に回る。そして、その様子や魅力をSNSの活用し随時発信していく。

■参加学生がプロジェクトを通して学んだこと

- ・今回このリバーフェスティバルが、どのような意図で開催されているのかを知りたいと思っていたが、大阪観光局の元で訪日外国人にアンケートを取る仕事が多く、ステージを見る時間は少なかったが、ジャズを聴いたり、日本の伝統衣装を着ている人を見ることにより、雰囲気を楽しむことが出来た。今回のようなイベントを高めるためには、今回のようにSNSでの発信などの地道な宣伝活動が大切だと分かった。

また、留学生のサポートという仕事については、留学生が日本語も堪能だったので、お互い困る事はなかったが、細かいニュアンスや千房がお好み焼きのお店である等、日本人としてのバックグラウンドを生かした時が何回かありとても嬉しく思った。

その他にも、自分の故郷の群馬県が出店しており、驚く瞬間もあった。大阪という魅力的な都市だが、留学に来るには、ハードルが高いと統計に出ていると経済学部の授業で習った。今回のような地道な活動が着実に実を結ばばいいと思った。関西経済は0成長と言われており、なかなか東京と比べ

ると辛いものがあるが、独自の文化をアピールして、訪日外国人を増やし、日本人でも大阪の良さを少しでも分かる人が増えたら本当に嬉しいと思う。

- ・学んだことの一つとして、計画性、そして積極性の重要性です。仕事内容について、どのようにするのか、具体的な指示はあまりなく、自分たちで考え行動することが求められた。その中でも特に、計画性と積極性が必要だと感じました。最初にどこ取材して、どういった風景、コメントを SNS で拡散していくことが、人を惹きつけるのかチームで話し合い計画を立てること、そしてその計画を実施するために積極的な行動をしていくことが大切だと実感しました。

また、外国人 20 組へのアンケートを通して、自分の仕事を楽しむことが大切であると思いました。アンケートは道頓堀の中心部で行ったため、外国人観光客も観光や買い物で忙しい人も多く、アンケートへの協力依頼をしても断られることが多く、少し大変だと感じました。一方で、アンケートに積極的に協力してくれる外国人観光客や、アンケートの項目にとどまらず、いろいろな話をしてくれる人もいて、この仕事が楽しいと思う時もありました。終わってみると、3 時間ほどで約 20 か国近くの外国人と話していたことに気づき、大阪にはこのように世界の国々から旅行に来ている人たちがいるのだなど、普段過ごしているだけでは気づかなかった発見もありました。仕事を大変だと思うよりも、楽しんでいると感じた時の方が、仕事がうまくいくことが多かったので、自分のしている仕事を楽しむことは大切だと思いました。

- ・地域ごと、その人ごとの特性、そしてそれらに対する反応も一人一人違っているということ。出演しているパフォーマーや出店しているブースの方々みな元気で溢れていた。

- ・私はこのようなプログラムに参加したのは初の試みで、非常に緊張していました。しかし、皆さんの温かい待遇を受けて、そのような気持ちは徐々に払拭されていき、心から楽しんでいる自分がいました。また翻訳の仕事を行う二人の話や、今回参加された方々のお話、他にもたくさんの方とお話ができ、自分自身のことを改めて見直すことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができたと考えています。私が今回のプロジェクトを通して学んだのは、「飛び込んでみる事の素晴らしさ」でした。本文の冒頭でも述べましたように、私はこのようなプログラムに初めて参加しました。私が今までこのようなプロジェクトに参加しなかった理由は多々ありますが、その多くは「気まずい」等の理由でした。しかし今回勇気を出して参加し、他では得ることのできない素晴らしいことを体験し、学ぶことができたのです。今後はこのようなプログラムがあった場合、より積極的に参加していこうと思います。

- ・一口にイベントの広報といっても、イベントのどの部分（出店、イベント）をどのように切り取る（文章、写真）かによって、被発信者に与える印象が違ってくことを学んだ。最初は何をどのように発信すればいいかわからず、とりあえず道頓堀川沿いのステージを撮って「道頓堀リバーフェスティバルやってます！みんな来てね！」というひねりのないツイートをした。しかしフェスティバルを回っていくにつれて、どんな役割を期待されている、どんな発信をすればいいか徐々に理解してきた。と出店されているお店の紹介をツイートする際、「カニ汁のカニは食べるものではないことを知りました」

と書くことでフォロワーの注目を集め、イベントに意識を向けることに成功した。「まさかの牛乳石鹸試用コーナー」「道頓堀にフィアット」というツイートはリバーフェスティバル公式アカウントに引用もされた。正直、自身の Twitter の友達にとっては鬱陶しいだろうなという懸念もあったが、意外にも、友達からは「いいね」や「リツイート」をもらい、イベント広報のやりがいを感じた。また、いち参加客として見て回るのではなく、宣伝担当としてイベントを回することで、目を光らせていなければ通り過ぎてしまうような出展に気づくことができた。広報する人はそのイベントを誰よりも熟知していなければいけないことを学んだ。

- ・観光客にアンケートを取る際に、コミュニケーション力の重要性を改めて認識しました。私は、かなり人見知りなので、勇気を振り絞って話しかけました。アンケート内容だけを説明するだけではなく、余談をしながら話を聞いていました。その過程に一番面白みがあって、たくさん大阪に関するエピソードを聴けて、大阪への理解が一層深まりました。多くの観光客が大阪に来ていることを間近で感じ。大阪の魅力を再認識しました。
- ・取材をするという目的でイベントを訪れるのは今回が初めての経験であった。産経新聞社様をはじめ、このような機会をくださったスポンサーの方々に感謝したいと思います。道頓堀リバーフェスティバルという名の通り、地域密着型のイベントや催し物が様々な形で行われていた。予想を遥かに超える規模のもので、敷地・ゲスト・動員数において、さすが大阪だと感じるものがあつた。ステージや物産に関しては距離を離して、いくつかのブースを形成しており、それぞれ違う客層に見合った催しをしていることが感じられた。人が多い都会ならではの混雑を招かないための工夫がみられ、非常によく練られた設置構成であると感じた。また、前日に鳥取で大きな地震災害が起こった日であったが、その支援を呼びかける柔軟な対応も多くみられ、過去に震災を経験している大阪府民の皆さんの人情味あふれる温かい気質も随所で感じた。鳥取県の物産コーナーでも、県民の方々が大変な時であるにもかかわらず現地から赴き、イベントに懸ける姿が非常に印象に残っている。
- ・道頓堀リバーフェスティバルへの参加は初めてであった。このフェスティバルに参加したきっかけは、日本の文化を知ることが出来ると思ったからである。参加した日以前にも道頓堀に行ったことはあつたが、そこに実際何があるのかはよく知らなかつた。しかし、当日、私と同じ留学生に対して道頓堀を紹介しながら、日本の文化などを紹介する必要があると、自分が知っている限りのことは伝えたが、あまり日本に詳しくない自分が役に立ったのか、心配していた。しかし、私と一緒にグループだった留学生は自分より日本に対する知識が多かつたため、とても助かつた。私はその留学生に習うことがとても多かつた。今後も、私自身日本について学び日本の文化を教えるて行きたいと思う。
- ・大阪なんばのど真ん中にあるシンボリックな道頓堀からは少し離れた、静かで大人な雰囲気のある湊町リバーフェスティバルの会場で、いきなりお祭り騒ぎが始まつたといった印象を受けました。大阪の中心部で海外からの観光客の方達がごつた返ししているという、いつもの日常+祭りという要素があつたので、大阪らしさが発揮されており、見ているだけで楽しかつたです。留学生の方達は、日本人とは違つた感性をもつており、留学生ならではの楽しみ方を発見してました。また、月亭八光さんの

MC の翻訳等もこなし、異文化に慣れ親しみ、日本流の目線と自分のオリジナルな目線も忘れないでいる姿を見て、とても尊敬しました。そのようなバイタリティが自分にも潜在的に備わっているのか、育てることはできるか、など考えるきっかけとなりました。

- ・道頓堀に元々あまり言ったことが無かったので、普段から海外の観光客で賑わっていることを肌で実感しました。その中でも、若者だけではなく、年配の方、たくさんの国籍の方、日本の各地からの出展者がいることについても驚きました。地元でたくさんの方々との交流をできる場があったことすら、自分自身知らなかったのも、機会があればまた参加したいと思いました。また、海外の方と交流する場合には、相手にインセンティブが何かしらあることが必要条件であることも実感しました。
- ・今回のプロジェクトを通じて、大阪・道頓堀がいかに日本の中心として機能しているのかを再確認したと共に、日本の地方産品物のバラエティーの豊かさを誇りに思いました。日本人学生と外国人留学生がチームを組んで、フェスティバルに参加することによって、日本人側はどんな事物が海外にとって魅力なのかを知ることができたし、外国人留学生は日本人から正しい知識とともに新たな日本文化にふれることができたのではないかと思います。また、それらを SNS で世界中に発信することは非常に有意義だったと感じています。

■今後の学生生活について（活かしたいこと、課題）

- ・今まで習ってきた韓国語を今回生かせることが出来たのは良い機会だった。何かを発信し、精力的に動くことを残りの学生生活5か月間、悔いのないようにやっていきたい。プログラムをやりたいと思いい、行動に移せたのは良かったが、学ぶべきことについては、もう少し時間を見つけて自分自身で見つけるべきだったと反省している。またこのような機会があったら積極的に参加し、交友の輪を広げ、知見も広げていきたい。5年間大阪に住んでいるが、人混みが苦手でこのようなイベントに自ら行くことは決してなかったために、大変良い機会になった。
- ・普段自分と関わりのないイベントに積極的に参加することによって、いろんな人と出会えたり、新たな発見があったりと、プラスに繋がる点が多いと改めて実感したので、今後も色々な事業に積極的に参加していきたいと思いました。取材や、SNS での拡散、外国人に直接アンケート調査等、初めて経験することも多く、少し不安もありましたが、今回経験したことによって自信につながったと感じたので、これからも新たなことにチャレンジしていきたいと思いました。
- ・自分の身の回りにはたくさんの機会があるはずなのに、十分な情報をキャッチできていないのはもったいないと感じた。今回も、本当に素敵なフェスティバルだったにも関わらず、このフェスティバルについて特派員の連絡が来るまで何も知らなかった。また、自分が今まで全く興味のなかったジャズに興味を持てたように、未知へのチャレンジがまだ知らない自分の発見にもつながることが分かったので、今後もこのような機会を大事にしていきたいと感じた。

- ・私は現在三回生で、これから「就職活動」といった最大の難関が訪れます。これからセミナーや講演会などといったイベントに参加することは必須となってきます。その時に、今回学んだ、「飛び込んでみることの素晴らしさ」を活かし、新しいことに臆することなく、何事にも積極的に取り組み、残りの大学生活を過ごしたいと思います。
- ・今回の道頓堀リバーフェスティバルの海外特派員では、日系アメリカ人、中国人、韓国人とチームを組んだ。自身の台湾、アメリカ、イギリスに在住・留学した経験を活かし、日系アメリカ人とは英語、中国人とは一部中国語、韓国人とは日本語でそれぞれコミュニケーションを取った。多国籍なメンバーと特派員活動を行う中で、彼らと通じ合うことの楽しさも同時に感じられ、やはり自分は将来、このような国境をまたいだコミュニケーションを軸にした仕事に就きたいとの思いが一層強くなった。産経新聞社記者の方の指導のもと、留学生たちと共に鳥取のカニ汁と地ビール店取材した。新聞記者の取材はさまざまな角度からの質問、および写真撮影をもって行われていることを体感し、将来のキャリア形成の一助となった。今回の機会を提供して下さった産経新聞さん、産業研究所さん、本当にありがとうございました。
- ・今後のどの領域でもコミュニケーション力が求められると思います。少し苦手でしたが、できないことではないと今回の活動を通じて気付きました。今回で少しあがったコミュニケーション力を活かして、もっと積極的に色々なことに取り込みたいと考えています。また、今回はチームごとの活動でしたが、少しチームワークに欠ける部分もありました。この反省を活かして、次回はもっと良いチームワーク作りができればと思います。
- ・留学生とペアを組んで交流する中で、時間をかけて互いの文化等について語り合うことができた。日本で育った自分にとっては当たり前となっていたことの中にも、多くの日本の特徴や良さが溢れていると彼らに気づかせてもらった。日本の文化が好きだとはっきりと口にしてくれることは、嬉しかった。それと同時に、自分の国に対する誇りも感じた。遠い異国の地からはるばる来日し、日本文化に畏敬の念を抱きながら馴染もうと、日々奮闘しながら生活する彼らの話を聴き、心から尊敬するとともに日本人として負けていられない、恥ずかしくない生き方をしたいと強く思った。残りの学生生活も少なくなり、「就活」という現実が迫っている。私は「企画、運営、観光」という人々を楽しませるエンターテインメントの要素を含んだ分野で働くことを志望している。今回の気づきを自分の将来のキャリアの中でアイデアの元として活用して消費者側からの視点も含んだ「ものづくり」をし、自分の伝えたい魅力を伝え切れるような仕事をしたいと思う。
- ・留学生の方達が MC 補助として、流暢な英語・韓国語・中国語を話していました。交流する中で、留学生の一人が、日本での大学生活だけではなく、日本の生活にも対応し、日本での研究に取り組みながら今回のようなイベントにも積極的に参加しており、卒業後は自身の国で官僚になると言っていました。そのすがすがしい生き方に素直に感銘を受けました。スキルの生かし方は十人十色ですが、自分自身も彼らを目指して生きていきたいと思いました。Mastery For Service を体現できる人間はこんな人であると思いました。グローバルな世界でグローバル人材があふれているはずの、近い未来にお

いて、彼らと切磋琢磨を繰り返した先に、経済的な発展だけではない、心の共有ができるはずだと思います。

- ・今から社会に出た際に、海外出張、転勤と日本を出た際に活かしたいと思います。相手の立場に立ち、相手が何を求めているのかを察する必要性を深く感じました。それは国内外、どんな人との関わりの中でもとても大切なことだと思うので、今回の経験を活かして、何事においても「自分ごと」と捉えて、相手の求めることを先に考えて行動していきたいと思います。
- ・個人的には2日目参加者の中で **Twitter** での投稿を最も多く行うことができ、目標を達成することができたと思います。課題としては、**SNS** で投稿する際に、どのようにメディアの特性を利用することが効果的かという点を考慮せず、ただ単なるポストを行っていたので、次回参加する際には限られた文字数の中でどのような言葉を選択すれば有効なのかを考えた上でプロジェクトに取り組みたいと思います。